

ほっと京たなべ

ナルホドを＼やってみよう／につなぐ広報紙

12

Dec.2025
No.955



京田辺市×同志社

特集

ともに歩んだ20年

注目情報



17ページ 路線バスに乗ろう!交通系ICカードにポイント付与

22ページ 乳がん・子宮頸がん検診

32-33ページ 年末年始のお知らせ



挟み込み

京田辺市×同志社 ともに歩んだ20年

市と同志社（大学・女子大学、国際中学校・高等学校）が連携協力に関する

協定（包括協定）を締結して、今年で20周年を迎えます。

今号では、これまでの連携の歩みと連携事業の一端を紹介します。

問合せ先：市民参画課（☎64-1314）

連携を強化して一緒に難局を乗り越えたい

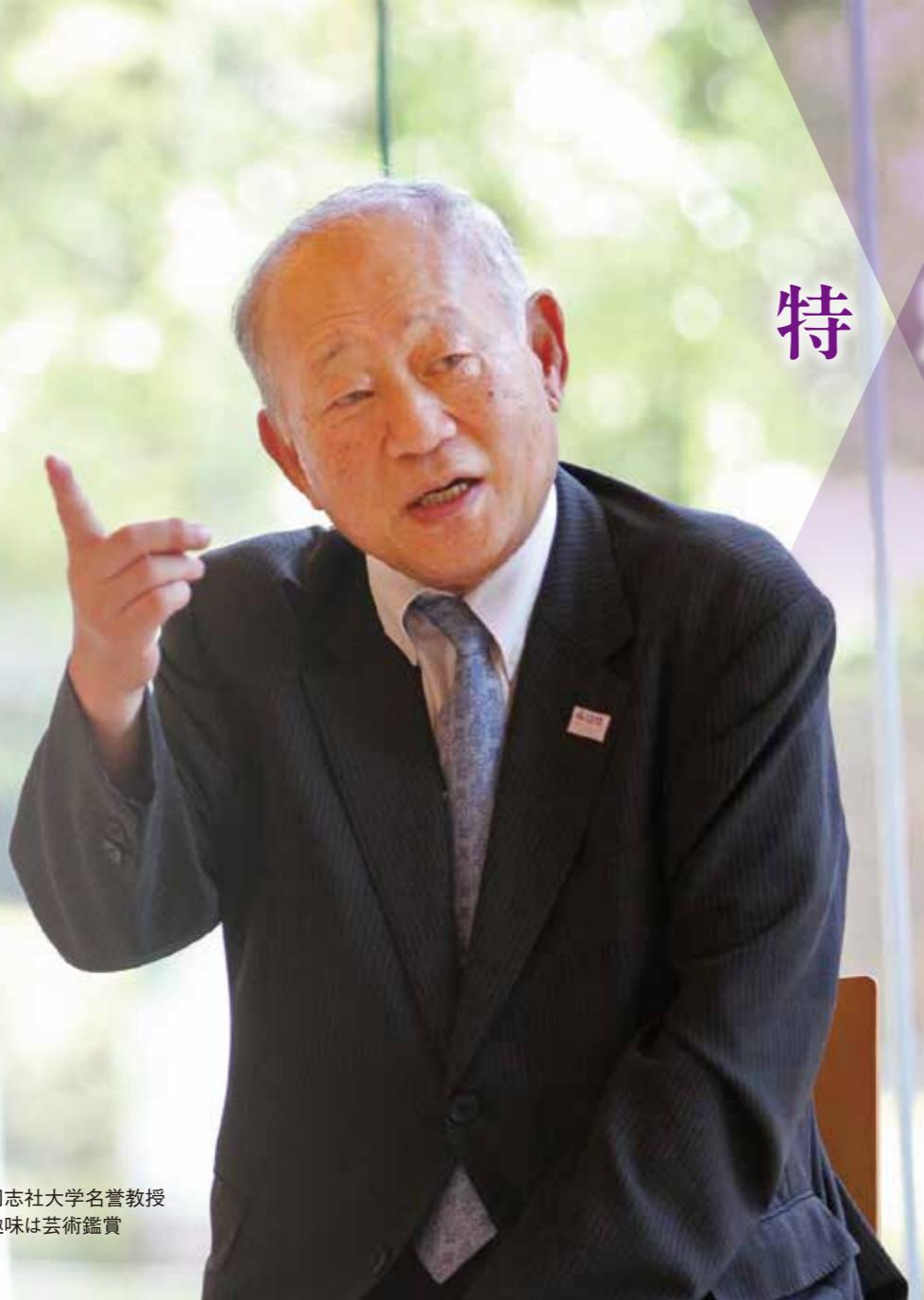


京田辺市長 上村 崇
(53)

特別対談



平成31年に市長就任。現在2期目。
同志社大学法学部卒業・同大学院総合政策科学
研究科修士課程修了 趣味は読書



八田英二さん (76)

学校法人同志社総長・理事長



連携の歴史はここから

平成17年、あらゆる分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材育成などを図るために、市と同志社大学、同志社女子大学、同志社国際中学校・高等学校の4者は連携協力に関する協定を結びました。八田さんは同志社大学長（当時）として握手を交わしています（左端）。

場所：京田辺市役所

これまでを振り返って
総長 市と同志社は、協定締結以来、年間100件を超える連携事業を展開しています。中でも印象に残っている事業は、コロナ禍の影響で、帰国も外出もできない留学生に対して行つた地元食材を販売するサービスです。大変好評で150件を超える申し込みがありました。地域と大学の結びつきによって課題が解決しただけでなく、留学生が本市に愛着を抱くきっかけとなつたことを実感しました。

また、同志社大学・同志社女子大学が市内に立地してから若い世代の人口が増え、まちに活気とにぎわいが生まれました。

総長 20年間の長きに渡つて地域に関わらせてもらつたことで、まちにも良い影響を与えられる存在になれたのではないでしょうか。今後も、地域に密着した活動を展開していきたいです。

これまでを振り返って

市長 市と同志社は、協定締結以来、年間100件

を超える連携事業を展開しています。中でも印象に残っている事業は、コロナ禍の影響で、帰国も外出もできない留学生に対して行つた地元食材を販売するサービスです。大変好評で150件を超える申し込みがありました。地域と大学の結びつきによつて課題が解決しただけでなく、留学生が本市に愛着を抱くきっかけとなつたことを実感しました。

また、学生には、このまちを「第2のふるさと」と感じられるくらい地域と関係を深めることで、視野を広げるとともに、成長の糧にしてもらいたいです。ぜひ一度、足を運んでみてください。

市長 市民の皆さんには、大学の資源を積極的に活用していただきたいです。連携事業への参加はもちろんですが、キャンパスも開放してもらいたいです。また、学生には、このまちを「第2のふるさと」と感じられるくらい地域と関係を深めることで、視野を広げるとともに、成長の糧にしてもらいたいです。

総長 市と連携協力に関する協定（包括協定）を締結するに伴い、地域と同志社をつなぐ窓口として、同志社大学に京田辺地域連携推進室を設けました。同志社では、学生が学内で学ぶだけでなく、地域の人々と関わることを重視しています。そして、地域が抱える課題に対して、大学の研究や教育資源を活用して、行政と一緒に解決に向けて取り組んでいます。

京田辺・同志社の今を語る

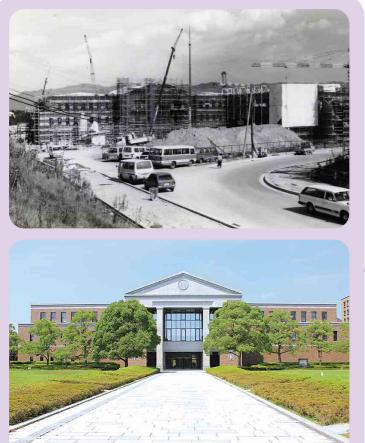
行政を担う「京田辺市」と、同志社大学、同志社女子大学、同志社国際中学校・高等学校を運営する「学校法人同志社」のトップ同士が、京田辺キャンパスで対談しました。連携をテーマに、現在・過去・未来という時間軸で語つてもらいました。

学生と関わって成長を手助けして



京田辺市とともに歴史を刻む同志社

まちづくりのパートナーである同志社と市民との関わりの変遷を紹介します。
学内にあるホールや施設などは市のイベントで使用する機会も多いです。



● 1875年(明治8年) 同志社創立 ※同志社大学の源流となる同志社英学校

● 1980年(昭和55年)
同志社国際高等学校開校

● 1986年(昭和61年)

同志社大学・同志社女子大学田辺キャンパス 開校

(現京田辺キャンパス)



● 同年 JR 同志社前駅開業



パイプオルガンも備える
1,000人収容の大ホール

● 1988年(昭和63年)

同志社国際中学校開校



● 同年 新島記念講堂完成(同女子大内)



● 1993年(平成5年)
京たなべ・同志社ヒューマンカレッジスタート

最新のマルチメディア
設備や劇場空間
などを備えた施設



● 2003年(平成15年)
同志社ローム記念館完成

● 2005年(平成17年)
市と同志社包括協定締結

● 同年 アダム祭
(現 同志社クローバー祭)スタート

スポーツ施設が充実するキャンパスで、
市民が学生からさまざまな競技を学べる教室



一例

● 2008年(平成20年)
同志社山手がまちびらき



● 同年 京たなべ・同志社
スポーツクラブ(KDSC)
スタート

● 2013年(平成25年) 理系学部の拠点に(文系は今出川キャンパスに移転)

● 2018年(平成30年) 同志社大学サイエンスアカデミースタート

● 2021年(令和3年) 市大学連携ディスカバリーベース設置

● 2025年(令和7年) 同志社創立150周年 市と同志社包括協定締結20周年

} 6ページ



対談場所となった同志社大学京田辺キャンパスにある京田辺会堂光館。館内に展示されている同キャンパス開校時のパネルの前で、対談後に互いにがっちり握手を交わし、さらなる関係の強化を誓いました。

未来に向けて

総長 今年は、同志社創立150周年の節目の年でもあります。大学の記念事業として、京田辺キャンパスに新アリーナ棟・多目的コート棟からなるスポーツ交流拠点「スポーツ・コンプレックス」を整備しており、アリーナは来年春、多目的コートは再来年春の竣工を予定しています。地域の人々と連携・協働しながら産学官を推進し、地域活性化につながる拠点になればと考えています。

市長 子育て世帯を中心に転入増加が続く本市ですが、令和12年をピークに減少に転じると推計されています。そこで、人口減少というマイナス要因をプラスに変える発想が必要で、地域の課題解決に向けて、行政・大学・企業の協働の幅を広げるとともに、持続可能な連携を支える仕組みを構築したいです。まちづくりのパートナーである同志社との連携を一層強化することで、一緒に難局を乗り越えていなければと考えています。

学生・市民へメッセージ

市長 学生時代は人間関係を広げ、深められる大切な時期です。キャンパスライフだけでなく、積極的に地域に出て人脈を広げ、さまざまな経験を積むことで、自己を高めてもらいたいです。その過程で、京田辺市を好きになってくれたらうれしいです。

総長 社会の一員としての責任感や共生力を学生が育くめるよう、市民の皆さんに手助けをお願いしたいです。連携事業などを通じて、どんどん学生と関わっていただけると幸いです。



11月12日、職場体験学習で秘書広報課に来てくれた大住中学校2年生が写真撮影を体験しました。初めて扱う一眼レフのカメラを慎重に構えながら、学生が持つバルーンの角度を指示したり、笑顔を引き出す声掛けをしたりして、懸命に表紙レビューを目指しました。

大住中2年生が
撮影体験

これも電池になるの? ふしぎ発電実験!

レモンで電池を作り、数を増やしながら、スピーカーから流れる音の鳴り方の違いを確認したよ。



かすかに聞こえる
「きよしこの夜」のメロディ



レモンを増やすと
音量が大きくなつたよ。

【参加者の感想】

レモンの数を増やした場合や、水や酢ではどうなるかを考える場面もあり、勉強になりました。帰宅後もおしゃべりが止まりませんでした。

プログラミングで ミュージックビデオを作ろう!



ピートに合わせて歌詞の表示やキャラクターを動かして、自分だけの歌詞アニメーションを作ったよ。



(遊び)+(くふう)=(さんすうはかせ): その2!

パズルやサイコロ型のお菓子の箱を使って、頂点・辺・面の数を数えるなど、遊びながら算数に親しんだよ。

パズルに
夢中!



使った教材は
プレゼント!

【参加者の感想】

算数は苦手意識がありましたが、パズルは大好きで、パズルの中に隠れている算数のことを知れて楽しかったです。

連携事業は年間100件以上!

市と同志社は、大学が有する知的資源と市民・地域とをつなぐ窓口「市大学連携ディスカバリーべース」を設けています。この窓口を通じて、まちの課題解決につながる研究を大学教員へ委託したり、大学教員が小・中学校で授業を行ったりするなど、年間100件を超える連携事業を展開しています。夏に開いた2つのイベントを紹介します。

つちのなかの虫を見てみよう!

土や落ち葉の中にいる小さな虫を、虫めがねや顕微鏡を使って調べたよ。



大学の教員や学生から楽し
く科学が学べるサイエンスア
カデミー。小・中学生に理科
に興味・関心を持つてもらう
ため、理系学部のある同志社

大学京田辺キャンパスで毎年
開いています。
7回目を迎えた今年は8月
6日に開かれ、5種類の教室
に計113人が参加しました。

#1 サイエンスアカデミー

大学の教員や学生から楽し
く科学が学べるサイエンスア
カデミー。小・中学生に理科
に興味・関心を持つてもらう
ため、理系学部のある同志社

大学京田辺キャンパスで毎年
開いています。
7回目を迎えた今年は8月
6日に開かれ、5種類の教室
に計113人が参加しました。



【参加者の感想】
昆虫の分類や採集方法など、初めて知ることばかりでした。また大学の先生や院生に直接聞けて良かったです。

無線信号でロボットを動かそう!

感覚でできるプログラミングソフトを使って、ロボット車を指示通りに走行させたよ。



【参加者の感想】
使用したプログラミング学習ソフト「スクラッチ」は小学校で習っていたので、分かりやすかった。先生や学生が優しく教えてくれて良かった。面白くて時間があつという間に過ぎました。

#2 多文化共生イベント

同志社大学グローバル・コミュニケーション学部の留学生は、外国人住民が地域コミュニケーションにスマートに参加できるきっかけづくりのため、互いの考え方や文化の違いを楽しく学べるイベントを開きました。企画した留学生の代表者4人に話を伺いました。

異文化の両者をつなぐ 架け橋になりたい



大学で「地域住民と在日外国人を結ぶ活動」をテーマにイベントを企画する授業がありました。そこで、日本人と外国人が互いの文化や考え方の違いを楽しみながら学べるイベントを立案し、外国人住民の日本語学習を支援する団体「京田辺国際ふれあいネット」の皆さんと協力して本イベントを企画しました。

—イベントの目的は

日本語をあまり話せない人のフォローです。できる限り対策したつもりですが、日本語が得意な人にもうしても発言が集中してしまい、全員から均等に

—難しかったことは

意見を引き出すことの難しさを痛感しました。

—このイベントで学んだことは

丁寧な確認作業、そしてリスクを想定した緻密な準備といった

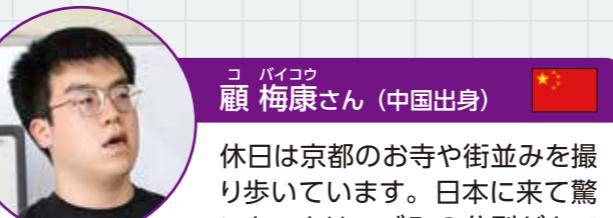
市内の日本語教室を見学した際、受講者によって日本語のレベルに差があったほか、1対1の形式だったため、あまり交流がありませんでした。そこで、参加者全員が意見交換できる場を目指しました。YES・NOを青と赤の紙で簡単に意思表示できるようにしたり、進行も大きな声でゆっくり話すことを心掛けたり、できるだけ難しい言

—工夫した点は

葉を選ばず「やさしい日本語」を使うようにしました。

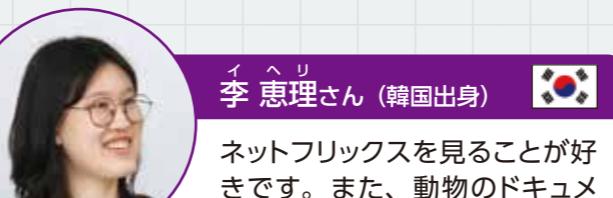
—良かったことは

アンケートで「自分と違う国のが文化が知れて面白かった」「自分の当たり前が、他人には当たり前ではないと知って驚いた」という感想をたくさんもらえたことです。文化の違いを「壁」ではなく「発見」として楽しんでもらえたと実感でき、うれしかったです。



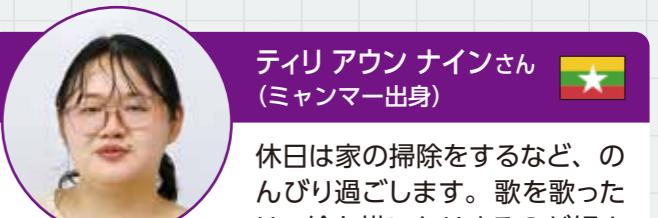
顧 梅康さん（中国出身）

休日は京都のお寺や街並みを撮り歩いています。日本に来て驚いたことは、ごみの分別がとても細かいことです。最初は覚えるのが大変でしたが、今ではすっかり慣れました。



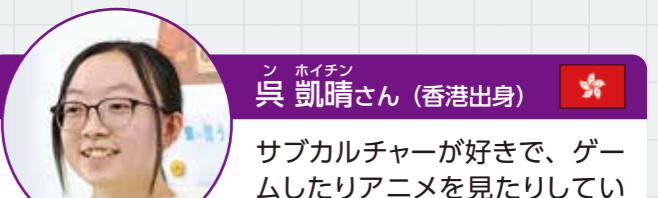
李 惠理さん（韓国出身）

ネットフリックスを見るのが好きです。また、動物のドキュメンタリーや料理の動画をよく見ます。日本に来て驚いたことは、サービスがとても丁寧で、「ここまでやるのか」と思いました。



ティリアウン ナインさん
(ミャンマー出身)

休日は家の掃除をするなど、のんびり過ごします。歌を歌ったり、絵を描いたりするのが好きです。日本に来て驚いたことは、辛いものが食べられない人が多いことです。



吳 凱晴さん（香港出身）

サブカルチャーが好きで、ゲームしたりアニメを見たりしています。日本に来て驚いたことは、母国では必ず友達と行くイメージなので。



国籍や文化が違う人々の間に立って、双方の意見を調整し、円滑なコミュニケーションを生み出す「架け橋」のような存在になりました。そして、今回得た反省点を踏まえて、多様な人々が集まる場所で、誰も取り残さない環境づくりに貢献していくと考えています。

—この経験をどのように社会に役立てたいか

今回の経験が、他のイベントを主催した経験がなく、不安はありました。しかし、参加者同士が活発に会話を交わしていました。これは、将来日本で働く上で必ず役立つ実践的なスキルだと感じています。

今回、代表者の誰もがイベントを主催した経験がなく、不安はありませんでしたが、予想に反して参加者同士が活発に会話を交わしていました。異文化間や他人との相互理解に必要なのは、心遣いよりも第一歩を踏み出すきっかけと勇気だと感じました。



7月29日、中央公民館にて

ほんの一端を切り取る／ 市と大学の協働ストーリー



同志社大学

(平成17年1月から連携)



他にはこんな事業も！

- ▼同志社クローバー祭
- ▼京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ
- ▼京たなべ・同志社スポーツクラブ(KDSC)
- ▼スポーツフェスティバル



同志社女子大学

(平成17年1月から連携)



同志社国際
中学校・高等学校

(平成17年1月から連携)



New



摂南大学

(令和7年11月10日に連携協定締結)



京都府立大学

(令和4年3月から連携)



市史編さん事業を調査



小学生に地域の歴史を現地で解説

市は、同志社以外の大学とも連携協定を結び、共にさまざまな分野で取り組みを進めています。昨年度は137件の事業が展開されました。

専門は、初等教育の中でも外国語教育ですが、同志社女子大学に来てからは、国際理解や多文化共生をテーマに研究の範囲を広げています。小学校では平成23年度より外国語活動が必修となり、学習指導要領で「原則英語」と定められましたが、今、日本では、中国語、ポルトガル語、フィリピノ語などを家庭言語とする児童

が増えています。それらの児童にとっては、日本語も英語も外国語です。現場の先生は、日本語と英語の能力に差がある多様なこどもの「外国語教育」に頭を悩ませており、その解決のために、具体的な教材開発を進めています。

教育と研究を分けて考えないことです。また、余暇と仕事をあまり区別していません。日常生活の中で、常に教材作りや研究を行っており、仕事と趣味の線引きなく、ずっとスイッチが入っている状態です。ただ、自分のこどもに教材を試してもらうなど、楽しく取り組んでいます。

一 市民の皆さんにメッセージ

同志社女子大学が京田辺市に移転してから、40年近くになります。私たちは、地域に開かれた大学として、市民の皆さんと交流する活動を増やしていきたいです。地域や小学校、保育所、幼稚園などと連携して、たくさん取り組みを進めていきたいです。

Interview 研究者の声



自分の体力を考えて2年前からジムに通っています。身体を動かすと仕事のスイッチがオフになります。良いリフレッシュになっています。

一 研究で心掛けていることは

発達のことを理解したいという思が研究につながっています。こどもたちにとって、多言語・多文化であることが「普通」と感じられるようになること、そして、国際理解教育や多文化共生の視点からも、整合性が説明できるよう教育活動を提案していくことを目指しています。

フィリピンやカンボジアのスラムでの学習ツアーを通して、私たちが抱いていた貧困のイメージが変化したこと、こどもたちに聞いてもらったよ。



国際理解・多文化共生を伝える
岩坂ゼミ生が三山木小学校で授業



まちかど photo

秋晴れに恵まれた11月2日、たなフェス2025が田辺中央体育館周辺で盛大に開かれました。4月に市のPR大使に就任した地元出身タレントの大倉士門さんも来場し、イベントの盛り上げに大きく貢献してくれました。新たな企画も増え、進化したたなフェスに、たくさんの市民の笑顔が弾けていました。



同志社クローバー祭



打ち上げ 花火



シゴトニア

市内企業のお仕事が
楽しく学べたよ♪



環境フェスタ in タナクロ



大阪府立淀川工科高校 スペシャルコンサート



交流都市ブースで買い物



消防フェス

オススメは
どれですか?
防火服は
重たかった
1,000人以上の皆さんと
撮影できて楽しかった♪
*たなフェス全体



「世界に一つだけの花」の
指揮を即興で披露。緊張し
たけど面白かった♪

やっほ～

PR大使 大倉士門さんが盛り上げに一役

奈良商工高校 和太鼓部の演奏



明日筋肉痛やわ。
結構キツい!

やっほ～

田辺高校ミニ鉄道

昨年より2万多人多い約6万人が来場!

記載がないものは、申込不要・無料

クリスマスを楽しもう♪

クリスマスマーケット

障がいのある人の就労を支援する市内の事業所でつくる「(-社)京田辺みんなの働くプロジェクト」が中心となり、クリスマスマーケットを開きます。京都山城京田辺支店JAまつりと同時開催なので、どちらも楽しんでください。

日時=12月20日(土)午後3時~9時

場所=京田辺クロスパーク

内容=▼クリスマスマーケット・手作り小物・温かいスープ・ホットドリンクなどの物販ブース▼音楽ステージ

▼こども向けワークショップ

問合せ先=(-社)京田辺みんなの働くプロジェクト
(☎27-2512)

けいはんなプラザ・出張ピチコンサート

■ 音が繋ぐ祈り (LOVE 京田辺マルシェ内で開催)

日=12月14日(日)

時間=▼午後0時30分から

▼午後3時から (各回約40分)

場所=ブランチ松井山手

内容=京都市立芸術大学の卒業生や若手演奏家による歌とピアノのコンサート

■ クリスマスコンサート サックスカルテットの調べ

日時=12月20日(土)午後1時15分~2時45分

場所=けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK・精華町)

曲目=クリスマスマドラーなど

定員=先着120人

【問合せ先】

けいはんな学研都市活性化促進協議会 (☎95-5034)

同志社京田辺アドベント礼拝

日時=12月12日(金)午後4時40分~6時 (予定)

場所=同志社大学京田辺キャンパス同志社京田辺会堂
言館

内容=聖書のメッセージ・バイオリンアンサンブル・
賛美歌の合唱・ハンドベルなど

問合せ先=同志社大学キリスト教文化センター
(☎65-7370 〈当日を除く〉、✉jt-kirib@mail.
doshisha.ac.jp)

8,000個のライトが冬の夜を演出 新田辺駅前イルミネーション

近鉄新田辺駅前の樹木を、約8,000個のLED照明で飾ります。サンタクロースや手作りのオーナメントなど、趣向を凝らした優しい光が、行き交う人々の心を癒やし応援します。

期間=令和8年1月15日(木)まで

時間=午後5時30分~10時

場所=近鉄新田辺駅西側バスロータリー
問合せ先=都市緑化協会 (☎63-0433)

フレッシュグリーンで 卓上クリスマスツリーを作ろう

日時=12月16日(火)午前10時30分~正午

場所=京田辺クロスパーク

対象=小学生以上の人。小学生は
保護者の同伴が必要です。

内容=サツマスマギやヒバを使って、家に飾るクリスマスツリーを作
るほか、ガーランドには木の実や小花をあしらいます。

講師=フローリスト京阪の浜崎由香さん

持ち物=花用はさみ・持ち帰り袋

定員=15人。多数の場合は抽選します。

費用=2,500円

申込方法=電話か電子メールで、「卓上クリスマスツリー作り参加希望」・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を連絡してください。

しめきり=12月12日(金)午後5時

申込・問合せ先=京田辺クロスパーク管理事務所 (☎29-9124、✉info-tanakuro.tcc.mb@mail.toray)

